

『「個別・最適な学び」と「協働的な学び」』

校長 鈴木 康史

先日授業見学に来た大学生にICT活用した授業のイメージを聞いたところ、「調べ学習(検索)」「オンライン授業」「AIドリル」と世の中のもつイメージ通りの答えが返ってきました。一方、小机小学校で今使われているタブレットは、「学びの蓄積」「学びの共有」が主となっています。27日に最後の校内国語授業研究会が行われました。そこで思い浮かんだのは、ICTの進歩で実現しやすくなるとされる「個別・最適な学び」と「協働的な学び」という言葉です。個人のペースで童話を選択して双六づくりに臨む「個別・最適な学び」の1年生と、図工の作品を説明する文の推敲のためにグループで記録した作品の確認や学級全体で検討結果を「協働的な学び」でタブレットPCを使う3年生の姿がありました。

新たに学校における基盤的なツールとなるICTも最大限活用しながら、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実が図られることが求められる。

子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」と、幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」も必要である。

探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要である。

(中央教育審議会の「令和3年答申」より抜粋)

自分のペースでAI採点されるドリルを扱い、デジタル教科書に書き込む時代はまもなく訪れそうですが、今いちばん成果を上げているのは考えや意見を共有するために「ロイロノート」の「提出箱」を使っていることです。一戸町から来た小学生との交流でも、カードを使って考えたことを途中からロイロノート上で考えたり全体で共有したりしていました。SDGsを使ってこれからの社会について必要なことを問う「正解のない話合い」の中で、他者の意見を尊重し、共通の見解を形作る「協働的な学び」ができました。その後、グループの考えを再度自分で見直したり、5月の自分の考えと比較したりすることで「個別最適な学び」としていました。学校は、他者と共に学ぶ場です。この二つの充実を今後も続けていきます。